

## 活動状況報告書（2月分）

文化芸術コース 田坂 佳那

2月から、私にとって2ゼメスター目である2024年夏ゼメスターが始まりました。今月は、今期に履修する授業を決め、新しい授業が開始しました。今期から新しく履修したのは、器楽伴奏科の必修授業になっている指揮伴奏の授業です。指揮科の教授と学生さんのレッスンに行き、交響曲などオーケストラの曲のピアノ編曲版を指揮に合わせて弾く授業です。また、座学で受ける授業も修了までに取るべき単位数が決められているのですが、前のゼメスターでは語学に不安があり履修していなかったため、今期から履修することにしました。また、今期は3つの異なる編成（ヴァイオリンとチェロとピアノの三重奏、ヴァイオリンとピアノの二重奏、フルートとピアノの二重奏）でグループを組んで、それぞれ異なる先生方の室内楽の授業を履修することができたので、自分が留学中に特に学びたい事である室内楽に取り組む機会を多く設けることができました。

主専攻のレッスンでは、前のゼメスターでは楽器とオーケストラのための協奏曲の伴奏を徹底的に学びましたが、今期からは楽器とピアノのためのソナタやその他様々な作品も含めて学ぶ計画になっています。2月はまずブラームスのクラリネットとピアノのためのソナタに取り組みはじめました。レッスンでは、これまで演奏したいと思っていても中々取り組む機会が無かった曲を勉強することができるので、レパートリーにしたい曲や理解を深めたい曲を厳選して取り組んでいきたいと思います。

学校での活動以外は、ウィーン楽友協会で行われた演奏会二つを聴くことができました。一つ目はチェロ奏者のゴージェ・カプソンとピアニストのダニエル・トリフォノフのデュオのコンサート、二つ目はキリル・ペトレンコ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートでした。どちらもウィーン楽友協会の大ホール（日本のテレビでも放送されるニューイヤーコンサートでもお馴染みのホールです）がほぼ満席になっていました。どちらの演奏会も記憶に残る素晴らしい演奏会でした。他には、今ゼメスターが始まる前の休暇中にはウィーンにある博物館巡りをしました。さまざまな博物館があり、展示からはオーストリアの歴史を知ることができました。

3月は、おそらく練習に明け暮れる日々になりそうです。ひとつひとつの機会により良い準備をして学ぶことができるように努力したいと思います。



